

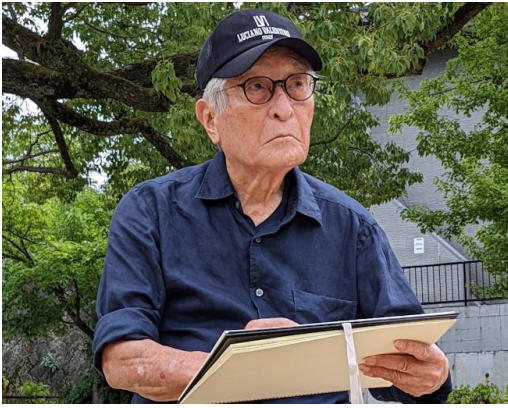
▼九州

長い間の講師お疲れ様でした

渡邊 由美子(RKB)

この3年にわたるコロナ禍で、同好会活動も自粛せざるを得ない状況の中、朗読奉仕グループ等2つの同好会の活動が、密にならないよう行われています。

その一つで、水彩画同好会は1994年(平成6年)2月、定年を迎えた女性5名で立ち上げられ、それに在福民放各社の男女15名が参画しました。講師は、ドラマ製作等に携わったRKB美術部出身の長岡盛雄氏にお願いし、28年間続いています。



スケッチ中の長岡さん

長岡講師には、現在10名(68歳〜90歳迄・平均年齢83歳)の会員の面倒を見て貰っています。月に2回の教室で花・果物等の静物画を描くことが多いのですが、時には画にちよつと手を加えて貰うことで、自分の画が見る見る生まれ変わっていく事に驚きながら嬉しさも感じています。

毎年春と秋、ギャラリーでの発表会を続けて来られたのも、講師の指導の賜物と感謝しています。以前、遠くは熊本のア蘇山や福岡市の志賀島などへスケッチ旅行に行った事が、楽しい思い出として脳裏に蘇ってきます。

数年前から講師退任の申し出があつたのを、会員の熱い要望で思いとどまって頂きました。しかし今年7月、長岡さんの卒寿を期に再び退任の申し出があり、今度は抗しきれませんでした。ただご本人は、絵を教える事はともかく、描く事には卒業は無いと益々意気盛んです。

後はコロナ禍が早く終息し、安心して皆で慰労会ができる日が来ることを祈っています。



長岡盛雄さん近作「南阿蘇」

100回超えたゴルフ同好会コンペ

飯田 舜一郎(OBS)

九州民放クラブ大分では囲碁、写真、ボウリング、旅行、ラ・ロンド(女性の美食の会)、うまいかい(旬を楽しむ飲食会)、ゴルフと7つの同好会がありますが、コロナ禍で活動できているのはゴルフ同好会のみです。

「大分みんくゴルフ会」は平成6年12月1日(約27年前)に発足し、年間4回開催、現在103回を数えています。第1回は15人が参加、優勝者は内田文夫さんでグロス81。準優勝は80。3位が84とレベルも割と高いスコアでした。直近の103回は優勝85。準優勝と3位は共に86で

まずまずのレベルだと思います。発足当時は参加者数も15人前後、多い時は20人を超えることもありましたが、現在は毎回10人前後でプレイを楽しんでいます。誰もが優勝のチャンスがあるようにハンディ制で実施しています。

表彰式では当日のプレイを振り返ったり、近況を語ったりしますが、後期高齢者がほとんどで健康状態が話題になることも。皆さんゴルフができる身体に感謝し、中には100歳まで続け、エージ・シュートを目標に頑張ると言う方もいます。心身ともにストレス解消できる楽しいゴルフ同好会。身体が続く限り楽しみたいと思います。



100回記念ゴルフコンペ集合写真